

## 入院中の患者に対する意思決定・自己決定支援に関する文献検討

### —対象を統合失調症に限定した場合と 精神疾患以外とした場合の相違点と類似点—

石井 薫

キーワード：入院、統合失調症、自己決定支援、意思決定、文献検討

#### I. 緒言

##### 1. 研究の背景

1981年9月第34回Declaration of Lisbon on the Rights of the Patient総会で患者の権利に関するWorld Medical Association（以下WMAとする）リスボン宣言が採択された。そこには、a) 患者は、自分自身に関わる自由な決定を行うための自己決定の権利を有する。医師は、患者に対してその決定のもたらす結果を知らせるものとする<sup>1)</sup>など、患者の自己決定の権利について記載がある。患者の権利は基本的に保証されるべき原則として確立されている。一方、精神科における患者の自己決定権については、2000年頃になって始めて理解されるようになってきた。平野<sup>2)</sup>は自己決定を、「自己に関することながらについて自らの責任において他人の干渉を受けずに決定して行動すること」と定義し、「たとえ最善の選択に失敗してもその結果に対する責任は自らが負い、他人に責任転嫁しないがゆえに他人の介入を排除した選択の自由が承認されうる」と述べている。また、中山ら<sup>3)</sup>は、患者が自らの意思で決定する際に葛藤やジレンマが生じる7つの理由について、オコナーらの研究を参考に、「①選択肢についての知識・情報の不足、②ある選択肢に過大・過小な期待をかけている、③価値観がはっきりしない、④周囲の人の価値や意見がよく分からない、⑤ある1つの選択肢に対する周囲のプレッシャーがある、⑥自分の選択を聞いてくれたり認めてくれる人がいない、⑦これらの障害を乗り越えるスキルや支援がない」と示している。

精神疾患患者は、幻聴や妄想、病識の欠如という特異

な症状に左右されると、情報をストレートに受け取ることが困難な状態となる。同時に患者の特異な症状は周囲の理解を得ることが困難である。周囲に障害を乗り越える支援がない場合もあり、精神疾患患者は家族の受け入れに対する不安を持つものが少なくない。精神疾患患者は潜在的に自己決定することに葛藤やジレンマを生じやすい状況にあると考える。看護師は患者の自己決定が困難な状況を把握した上で、必要な支援を行う必要がある。

そこで、本研究では精神疾患の中でも患者数が多い統合失調症患者を対象を限定した場合と、精神疾患患者以外を対象とした場合の意思決定・意志決定（以下、意思決定とする）・自己決定支援内容の相違点と類似点を明らかにすることで、疾患の特徴を踏まえた意思決定支援の特徴と看護師の役割が見出せると考える。

##### 2. 研究目的

統合失調症患者を対象を限定した場合と、精神疾患患者以外を対象とした場合の意思決定・自己決定支援内容の相違点と類似点を明らかにする。

#### II. 研究方法

##### 1. 用語の操作的定義

本論文では用語を以下のように定義する。

- 1) 長期入院とは、宇佐美ら<sup>4)</sup>の報告を基に、継続2年以上の入院とする。
- 2) 自己決定とは、看護行為用語分類<sup>5)</sup>を基に、十分な情報を提供された上で、自身で意思決定することとする。
- 3) 自立とは、障害者自立支援法・総合福祉法（仮称）に関する意見一覧①<sup>6)</sup>を基に、地域社会で生活する権利・当事者の積極的な参加、自己選択、自己決定が尊重され、必要な支援を利用して、地域で独立した生

Kaoru Ishii

関西福祉大学看護学部

活ができることとする。

4) 自己決定支援とは、Deci E L<sup>7)</sup>を基に自分で決めたい欲求を持ち、それに対する目標、行動の選択肢、行動の決定(行動の調整)を行えるよう援助することとする。

## 2. 研究対象

文献検索は、2006年10月より2013年11月までの文献を医学中央雑誌web版(Ver.5)を使用し、キーワードは「意志決定」or「意思決定」or「自己決定」or「自律性」or「権利擁護」とし、「学生」を除外した「患者」「看護」で検索すると179件の原著論文が抽出された。疾患の特徴を踏まえた自己決定支援について検討するため、身体障害、知的障害、精神障害の各サービスの利用の仕組みが一本化された障害者自立支援法施行後の2006年10月以降の文献とし、対象を精神疾患以外の患者としたものと、精神疾患の中でも患者数が多い統合失調症患者に限定して比較を行った。文献は、入院中の患者に対する意思決定・自己決定支援の内容や意思決定・自己決定に影響する要因について述べている文献とし、精神疾患患者以外対象の7件と統合失調症患者を対象とした15件の文献を分析、検討の対象とした。

## 3. 分析方法

各々の文献を看護者の自己決定支援に関する意識、自己決定能力に関連する要因、自己決定支援における看護者の役割に焦点を当てて整理した。

## Ⅲ. 結果

### 1. 文献数

文献は22件であり、様々な領域で、自己決定を支える看護支援の必要性が報告されていた。その中で精神疾患以外の入院中の患者への看護について書かれたものは7件あり、1) 自己決定能力に関連する要因2件、2) 自己決定支援における看護者の役割4件、3) 看護者の自

己決定支援に関する意識1件、の3つに識別できた(表1)。また、入院中の統合失調症患者への看護について書かれたものは15件あり、1) 自己決定能力に関連する要因7件、2) 自己決定支援における看護者の役割8件、の2つに識別できた(表2)。

## 2. 文献内容

(1) 自己決定能力に関連する要因

### ①精神疾患患者以外を対象とした研究

ストーマ造設患者が自信をもてるようなセルフケアの援助は、意思決定能力の改善につながっており<sup>8)</sup>、高齢患者の意思決定過程には、家族との関係性や医療者の関与が影響していた<sup>9)</sup>。

### ②統合失調症患者を対象とした研究

問題点に沿ったアプローチを早期より行うことで、統合失調症患者のセルフケア能力の低下予防や回復が行え<sup>10)</sup>、施設症患者の自己決定は、患者の自己関与感に影響していた。セルフケアの課題における成功体験は、他の日常生活行動における行動の変容をもたらした<sup>11)</sup>。自我強化のかかわりは、統合失調症患者の自己決定力を高めることに有効であり<sup>12)</sup>、患者の社会参加は当事者能力や主体性の回復につながった<sup>13)</sup>。看護師の【惰性的ケアの解除】、【患者の可視化】、【抵抗・緊張の緩和】、【突破口の模索】、【組織の耕作】により退院支援の困難は低減され<sup>14)</sup>、患者・家族・多職種が連携し、患者の思いに添うことで、患者の自己決定能力が高まった<sup>15)</sup>。統合失調症患者の敵意・興奮・猜疑心と地域生活のセルフエフィカシーは、退院支援を阻む要因となっていた<sup>16)</sup>、などがあった。

(2) 自己決定支援における看護者の役割

### ①精神疾患患者以外を対象とした研究

腫瘍患者の生活上の自己決定支援は、主体的な治療上の自己決定支援にも繋がっており<sup>17)</sup>、看護師は患者が現実を受け入れ、自分で意思決定し意味を見出して

表1 入院中の患者を対象とした意思決定、自己決定支援の対象と支援内容  
精神疾患患者以外を対象とした場合

著者	掲載年	自己決定支援の対象	対象人数	自己決定支援の内容
佐藤 <sup>8)</sup>	2010	ストーマ造設患者(67歳、女性。直腸癌)	1名	自己決定能力に関連する要因
井上 <sup>9)</sup>	2009	高齢患者 看護経験10年以上の看護師	3名	
西 <sup>17)</sup>	2013	造血管腫瘍発病から1年以上経過した患者	7名	自己決定支援における看護者の役割
益田 <sup>18)</sup>	2010	未破裂脳動脈瘤により血管内手術を受けた患者	19名	
国府 <sup>19)</sup>	2010	癌専門病院で初めて乳癌と診断され、初期治療について医師から選択肢を提示され、その選択を任された乳がん患者	19名(女性。29~64歳、平均年齢47歳)	
国府 <sup>20)</sup>	2008	乳がんI期またはII期と診断された患者	21名	
内堀 <sup>29)</sup>	2009	血液内科病棟の看護師	16名	

表2 入院中の患者を対象とした意思決定、自己決定支援の対象と支援内容  
統合失調症患者を対象とした場合

著者	掲載年	自己決定支援の対象	対象人数	自己決定支援の内容
石川ら <sup>14)</sup>	2013	民間単科精神病院3施設にて長期入院患者の看護を実践している看護師	6名	自己決定能力に関連する要因
奥田ら <sup>12)</sup>	2009	長期入院統合失調症患者	1名	
長浜ら <sup>13)</sup>	2008	18年入院中の統合失調症患者	1名	
上村 <sup>15)</sup>	2008	閉鎖病棟に10年入院中の統合失調症患者	1名	
長野ら <sup>10)</sup>	2008	退院に消極的な統合失調症患者	1名	
伊藤 <sup>11)</sup>	2008	退院を拒んでいる施設症統合失調症患者	1名	
池淵ら <sup>16)</sup>	2008	入院中の統合失調症患者	229名	
近藤ら <sup>24)</sup>	2012	約30年入院生活を送る統合失調症患者	1名	自己決定支援における看護師の役割
田嶋ら <sup>22)</sup>	2009	1県下の精神医療機関9ヶ所に勤務する看護師	25名	
工藤ら <sup>23)</sup>	2009	5年以上の入院経過をもつ統合失調症患者	1名	
大熊 <sup>21)</sup>	2008	入院中の18歳以上の統合失調症圏で、発病して1年以上経過し、単身生活を送る予定の統合失調症患者	3例	
松井 <sup>26)</sup>	2008	退院促進支援事業用の個人記録より抽出した2年間入院中の事例	1事例	
春山 <sup>28)</sup>	2008	11年間入院中の統合失調症患者	1名	
西垣 <sup>25)</sup>	2007	14年入院中の統合失調症患者	1名	
小成 <sup>27)</sup>	2006	慢性統合失調症患者事例	2事例	

いけるように支援する必要があった<sup>18)</sup>。初期治療選択を行う乳がん患者に対する具体的な自己決定支援の方法として、看護師が【選択肢に関する情報理解を促すサポート】、【意思を明確にしていく過程を促すサポート】、【判断や考え方に関する具体的助言】、【自己決定を後押しするサポート】、【意思決定までの精神的サポート】、【生活上の負担を軽くするサポート】、【混乱や孤独感を招くサポート】を行っていることが報告されていた<sup>19) 20)</sup>。

#### ②統合失調症患者を対象とした研究

退院支援における看護師の役割には、「患者の意思決定を待つ」<sup>21)</sup>、「家族と患者の関係の再構築に働きかける、支援チームを調整する」<sup>22) 23)</sup>などが含まれていた。段階的に(患者が)達成可能な目標を設定し、支持的に関わることで長期入院中の統合失調症患者の地域生活が可能になった<sup>24)</sup>。患者と看護師との信頼関係を構築しながら、リカバリープロセスに沿って支援することが、退院への意識につながり<sup>25)</sup>、看護師が日常的に肯定的ストロークとフィードバック、事実に即したタイミングのよいストロークとフィードバックを提供することで患者のエンパワメントが向上した<sup>26)</sup>。(看護師の)自己決定に沿った働きかけが、(患者の)退院意欲を高め<sup>27)</sup>、チームがそれぞれの役割を実践することで、患者が自己決定の意向を示せた<sup>28)</sup>、などが報告されていた。

対象文献8件のうち、6件が退院に関する決定支援であった。疾患に関する自己決定支援、統合失調症患者に対する意図的かつ具体的な自己決定支援に関する報告はされていなかった。

#### (3) 自己決定支援に関する看護師の意識

##### ①精神疾患患者以外を対象とした研究

精神疾患患者以外を対象とした報告は1件で、患者・家族が意思決定できるように支援することを実施困難と感じている血液内科病棟の看護師が多かったこと<sup>29)</sup>について報告されていた。

##### ②統合失調症患者を対象とした研究

自己決定支援に関する看護師の意識に関する報告はされていなかった。

## IV. 考察

### 1. 統合失調症患者と精神疾患患者以外の意思決定・自己決定支援内容の相違点と類似点

退院に関する自己決定支援に関する研究では、精神疾患であるか否かに関わらず、患者が周囲の状況に左右されることが明らかとなった。精神疾患患者以外の場合、患者が自分の意思だけではなく、周囲の状況を考慮した上で、最終的な決定を行っていた。一方、統合失調症患者を対象とした研究では、患者の周囲の環境が自己決定能力に強く関連していることが示されていた。沖野は、「ICに関する認識の低い患者に、治療の選択・決定を患

者自身の意思決定ではなく、医師の決定に委ねた者が多い状況は、医療を受ける患者の主体性や権利者としての未成熟な意識や行動を反映したものと言える<sup>30)</sup>と述べている。自我が脆弱で周囲の影響を受けやすい統合失調症患者の特徴や、周囲のサポートが不足していることが多い状況は、統合失調症患者の主体性、意識や行動の未成熟さに寄与しており、患者自身の意思決定を困難にする一要因であり、これは沖野の研究結果と一致している。

さらに今回統合失調症患者を対象とした研究で、長期入院中の患者または退院意欲のない患者が対象となっているものは15件中13件と、統合失調症患者の意思決定・自己決定に関する文献全体の86パーセントを占めていた。宇佐美らは、「長期入院や病院内の決まった生活による施設化は、患者の自己決定できない状況をより強化する。」<sup>31)</sup>と述べている。これは入院期間の短縮を含め、統合失調症患者の退院支援には課題が残されていること、入院期間が自己決定能力に関連する一要因となっていることを示唆するものであり、宇佐美の研究結果と一致する。

## 2. 疾患の特徴を踏まえた自己決定支援の特徴と看護師の役割

自己決定支援における看護師の役割において、精神疾患患者以外を対象とした研究では、いずれも複数ある疾患の治療に関する選択肢から、患者が主体的に治療方法を選択し、決定するための看護師の役割について述べられていた。対して統合失調症患者の自己決定場面では、疾患の治療に関する選択肢はなく、看護師の患者に対する直接的支援というより、患者の周囲の環境を調整することで患者の準備を待つ、患者にとって受動的な決定支援となっている。これは、治療を受けるか受けないかの選択肢がない統合失調症患者における、看護師の自己決定支援の困難さを表しているものと考えられる。治療に向き合うことで、治癒や寛解が実感できる疾患と異なり、統合失調症では病識のなさにより、治療の効果が患者自身で実感しづらいことが一要因であると推察する。

自己決定支援に関する看護師の意識において、精神疾患患者以外を対象とした研究では、患者の意思決定支援の困難さが報告されていた。一方、統合失調症患者を対象とした研究では、患者の自己決定能力を高める要因や看護の役割についての報告が多かった。これは精神疾患以外の患者への自己決定支援は、看護師の意識に根付いていること、統合失調症患者の自己決定支援における困難さは、看護師の中では周知の事実であると共に、課題

となっていることを示唆するものと考えられる。

統合失調症患者の自己決定を支援することは、患者のセルフケア能力の向上、施設症の予防とも関連があり、退院への方向付けとなる。今後、入院中の統合失調症患者には、日々の生活の中でどのような自己決定支援の場面があり、看護師がどのように意図的かつ具体的な自己決定支援をしているかを明らかにすることで、長期入院中の統合失調症患者の退院や社会復帰の促進につなげることが課題であると考えられる。

## V. 結論

退院に関する自己決定支援に関する研究では、精神疾患であるか否かに関わらず、患者の意思決定が周囲の状況に左右されることが明らかとなった。ただし、精神疾患患者以外の場合、患者が自分の意思のみならず、周囲の状況を考慮した上で、最終的な決定を行う一方、統合失調症患者の場合、患者の周囲の環境や入院期間が自己決定能力に関連していることが示されるに留まっていた。

自己決定支援に関する看護師の意識において、精神疾患患者以外を対象とした研究では、患者の意思決定支援の困難さについて報告されていた。一方、統合失調症患者を対象とした研究では、患者の自己決定能力を高める要因や看護の役割についての報告が多かった。

精神疾患患者以外の自己決定支援に関する研究は、疾患の治療方法に関するものが多く、複数ある治療に関する選択肢から、患者が主体的に決定できるようサポートするのが看護師の役割であった。対して、統合失調症患者の場合は、疾患の治療に関する選択肢はなく、患者の周囲の環境を調整することで患者が決定できる準備を支えるのが看護師の役割であることが明らかとなった。

## 引用・参考文献

- 1) 患者の権利に関するVWAリスボン宣言 (1981), 2014年12月20日, <http://www.med.or.jp/wma/lisbon.html>
- 2) 平野武：生命をめぐる法、倫理、政策, p55, 晃洋書房, 京都, 1998.
- 3) 中山和弘, 岩本貴：患者中心の意思決定支援—納得して決めるためのケア, p35, 中央法規出版, 東京, 2011.
- 4) 宇佐美しおり：第1章長期入院患者と予備軍の定義と特徴. 宇佐美しおり, 岡谷恵子 (編), 長期入院患者および予備軍への退院支援と精神看護, 1-7,



- 医歯薬出版, 東京, 2008.
- 5) 看護学学術用語検討委員会編, 看護行為用語分類: 看護行為の言語化と用語体系の構築 第三部領域別看護行為用語4E0301領域4.情動・認知・行動への働きかけ, 自己決定への支援, p291, 日本看護協会出版, 東京, 2005.
  - 6) 障害者自立支援法・総合福祉法(仮称)に関する意見一覧①(2010), 2015年1月7日,  
[http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kaikaku/s\\_kaigi/k\\_3/pdf/sl.pdf](http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kaikaku/s_kaigi/k_3/pdf/sl.pdf)
  - 7) Deci E L: The psychology of self-determination. DC Health& Company. 石田梅男(訳): 自己決定の心理学—内発的動機づけの鍵概念をめぐる. 誠信書房, 東京, 1985.
  - 8) 佐藤和美: ストーマ造設患者のセルフケア支援, がん看護, 15(1), 59-62, 2010.
  - 9) 井上留実, 三重野英子, 末弘理恵, 他: 高齢患者の手術に対する主体的な意思決定のあり様とその影響する状況, 日本看護学会論文集 老年看護, 39, 150-152, 2009.
  - 10) 長野浩二, 隠塚和子, 金子光, 他: 退院に消極的な長期入院患者と家族へのアプローチ, LASMIを用いた退院に向けての支援と経過, 日本精神科看護学会誌, 51(3), 577-581, 2008.
  - 11) 伊藤靖子: 施設症患者の退院への動機づけを高めるケアの要因, 自己効力感や自己尊重を高める支援の効果, 日本精神科看護学会誌, 51(3), 117-121, 2008.
  - 12) 奥田元, 北森久美子: 自己決定力を高めることができた要因 長期入院患者の退院支援をとらえて, 日本精神科看護学会誌, 52(2), 509-513, 2009.
  - 13) 長浜利幸, 池田美緒, 青木周二, 他: 長期入院患者が社会参加することで変化していく過程, 地域住民とふれあって, 日本精神科看護学会誌, 51(3), 446-450, 2008.
  - 14) 石川かおり, 葛谷玲子: 精神科ニューロングステイ患者を対象とした退院支援における看護師の困難, 岐阜県立看護大学紀要, 13(1), 55-66, 2013.
  - 15) 上村聡: 長期入院患者の思いによりそう退院支援, 病院内売店を導入して, 日本精神科看護学会誌, 51(3), 672-676, 2008.
  - 16) 池淵恵美, 佐藤さやか, 安西信雄: 統合失調症の退院支援を阻む要因について, 精神神経学雑誌, 110(11), 1007-1022, 2008.
  - 17) 西光代, 宇都宮與, 堤由美子: 造血器腫瘍患者の初期治療期における主観的体験と自己決定の質的分析, 日本看護科学会誌, 33(4), 53-62, 2013.
  - 18) 益田美津美, 井上智子: 未破裂脳動脈瘤により血管内手術を受けた患者の不確かさの体験と看護支援に関する研究, 日本クリティカルケア看護学会誌, 6(3), 16-25, 2010.
  - 19) 国府浩子: 初期治療選択を行う乳がん患者が受けるサポート, 日本がん看護学会誌, 24(2), 24-31, 2010.
  - 20) 国府浩子: 初期治療を選択する乳がん患者が経験する困難, 日本がん看護学会誌, 22(2), 14-22, 2008.
  - 21) 大熊恵子: 統合失調症患者の退院後の生活場所に関する意思決定に影響する要因, 精神障害とリハビリテーション12(1), 73-80, 2008.
  - 22) 田嶋長子, 島田あずみ, 佐伯恵子: 精神科長期入院患者の退院を支援する看護実践の構造, 日本精神保健看護学会誌, 18(1), 50-60, 2009.
  - 23) 工藤裕子, 川中健, 藤井初美: 退院意欲の乏しい長期入院患者への退院調整 自己決定能力の低さと家族の受け入れへの不安に着目して, 日本精神科看護学会誌, 52(2), 223-227, 2009.
  - 24) 近藤浩子, 岩崎弥生: 慢性精神障害の退院を支援するグループ・アプローチに関する研究(第1報), 千葉看護学会会誌 15(2), 27-35, 2009.
  - 25) 西垣里志: 長期入院患者の自立への第一歩, ストレングスに焦点を当てたかわりかもたらした自己決定能力の高まり, 日本精神科看護学会誌, 50(2), 534-538, 2007.
  - 26) 松井知賀子: 長期入院患者が自分を認め、振り返るかわり 肯定的なストロークとフィードバックから患者の変化を検討する, 日本精神科看護学会誌, 51(3), 606-610, 2008.
  - 27) 小成祐介: 長期入院の統合失調症者の退院調整, 自己決定に沿った看護援助による退院意欲の高まり, 日本精神科看護学会誌, 49(2), 264-268, 2006.
  - 28) 春山照美: 長期入院患者・社会復帰支援, 日本精神科看護学会誌, 51(3), 348-351, 2008.
  - 29) 内堀由香, 伊藤葉月, 長田友紀: アドボケートに着目した事例検討による看護師の認識調査, 日本看護学会論文集, 成人看護II, 39, 170-172, 2009.
  - 30) 沖野良枝: インフォームド・コンセントに対する患者の認識と意思決定要因の分析, 日本保健福祉学会誌, 8(2), 29-39, 2002.

- 31) 宇佐美しおり：第1章長期入院患者と予備軍の定義と特徴. 宇佐美しおり, 岡谷恵子 (編), 長期入院患者および予備軍への退院支援と精神看護, 1-7. 医歯薬出版. 2008.